論文

昭和20年代の保育カリキュラムづくりに関する実証的研究（4）
―25年度以降（1950～54年度）の月案を中心に―

豊田　和子　清原みさ子
榊原菜々枝　寺部　直子

１．はじめに（問題意識）

保育・幼児教育の公的なカリキュラムの変遷としては、戦前の「幼稚園令施行規則」によるいわゆる「保育５項目」から、戦後は『保育要領－幼児教育の手びき－』（1948年３月文部省刊）に示された「保育内容の12項目」の考え方が昭和20年代を通じて各地の園に浸透していく。20年代後半には新しい６領域案の『幼稚園教育要領』への改編に向けての研修などもあり、各園でのカリキュラムの内容も徐々に６領域へと移行していったというのがこれまでの一般的な見解であった[1]。しかし、幼稚園・保育所の現場では、必ずしもそのように画一的ではないことが私たちの収集した資料の分析から明らかとなった[2]。それらの継続研究として、本稿では収集した資料の中からまだ検証していない20年代後半期の「月案」[3]に着目して、その形式、主題・単元、保育内容等の実際を分析し、その特色と思われることを明らかにしたい。併せて、この時期に刊行された保育カリキュラム関連の出版物や出回っていた保育雑誌に掲載されている月案との比較を行い、共通点や園（団体）作成の月案にみられる独自の特徴などを検討していきたい。

分析対象の月案等は、表１の７園・団体の13編である。このうち自然幼稚園のものは、保護者向けに発行された印刷物の中に紹介されたものであり、厳密な意味で月案ではないが、概要は把握できると判断して分析対象とした。慈友会保育園は、昭和28（1953）年度から慈友会幼稚園に園名が変わっている。なお以下、本文では、年度に関しては和暦ではなく西暦で表記することとする。

【表１】分析対象の月案

園名・団体名〈公私立の別・所在〉	作成年度	月案等の名称
徳島市幼稚園部会〈公・徳島県〉	1950年度	徳島市幼稚園保育課程（試案）
慈友会保育園（幼稚園）〈私・愛知県〉	1950年度 1952年度 1953年度 1954年度	保育案 保育月案 月案　保育案 月案
名古屋市立第一幼稚園〈公・愛知県〉	1951年度 1952年度	昭和二十六年度試案　幼稚園教育課程 本園のカリキュラム
龍野幼稚園〈公・兵庫県〉	1951年度	単元一覧表
慈光保育園〈私・長野県〉	1952年度	保育カリキュラム
自然幼稚園〈私・京都府〉	1952～54年度	保育プラン
興望館保育園〈私・東京都〉	1954年度	月別カリキュラム

比較した保育カリキュラム関連の刊行物および雑誌等は、①雑誌『保育』、②全国保育連合会中央カリキュラム委員会『標準保育カリキュラム』、③雑誌『幼児の教育』、④雑誌『月刊保育カリキュラム』とする。詳細は、注記の表14[4]のとおりである。

２．月案の形式について

（１）徳島市幼稚園部会の月案　（1950年度）

徳島市幼稚園部会編纂「昭和二十五年四月　徳島市幼稚園保育課程（試案）」は、『徳島県幼稚園史』[5]に収録されている資料しか入手できなかったので、元のカリキュラムのサイズはわからない。各月１枚で４～３月までの12か月分で縦書きである。形式は、表の右側に「主題」「行事」「単元」「目標」「生活の展開」「能力」の欄が設定され、保育内容をあらわす「生活の展開」はさらに「見学　観察」「リズム　音楽」「自由遊び　ごっこ遊び」「お話」「絵画製作」「健康保育」「生活の良習慣」の７項目に区分されている。

(2) 慈友会保育園（幼稚園）の月案　(1950年度)（1952年度）（1953年度）（1954年度）

1950年度の月案は、4～10月までの６か月分（8月を除く）があった。大きさは、Ｂ４判で縦長、手書きである。上部に「二年年長組」「一年保育」「二年年少組」に枠が区分され、表の右側に「主題」「健康保育　休息」「社会生活指導」「見学　観察」「音楽　リズム」「お話」「絵画」「製作」「ごっこ遊び　人形芝居　劇遊び」「自由遊び　集団遊び」「年中行事」という11欄と「備考」がある。この区分を見ると、「保育要領」の12項目に準じている。

1952年度の「保育月案」は、4～6月と9～2月の9か月分がある。大きさはB4判縦長で、縦の手書きである。形式は、表の上から、「月」「週」「主題」「健康保育　休息」「社会生活指導」「見学　観察」「音楽　リズム」「お話」「絵画」「製作」「ごっこ遊び、人形芝居　劇遊び」「自由遊び　集団遊び」「年中行事」「備考」となっていて、保育内容は12項目に近い。

1953年度の「月案　保育案」は、4～7月、9～11月、2月分があった。大きさはＢ４判縦長で、手書きである。「月案」と書かれているが、2週ごとに分けられ、4週間分が1枚に収まる様式で、週案を基本とした月案と言える。形式は前年度と同じである。

1954年度の「月案」は、11～3月の5か月分がある。B4用紙縦長で、横書きの手書き、枠はない。上に「単元」が書かれ、次に「目標」（1月のみ「指導目標」）がある。書き方は月により異なり、11月には「観察」「言語」「絵画製作」「音楽リズム」「遊び」「生活指導」について内容が記され、その下に週の主題、曜日ごとの主な活動、行事があげられている。

(3) 名古屋市立第一幼稚園の月案　(1951年度)（1952年度）

1951年度の「昭和二十六年度試案　幼稚園教育課程」は、「二年保育年長組」と「一年保育年長組」がある。B4判の横向きで「保育内容」の部分は紙を補足してあり、B4判より長めになっている。文字は縦書きと横書きが混在している。表の左側に上から大枠として「幼児生活主題」「保育領域」「指導目標」「保育内容」の欄が設定されている。「幼児生活主題」の枠には、月主題と主目標を書くようになっている。「保育領域」欄はその右側に「健康安全」「集団生活による自主独立」「社会生活及び自然生活の理解」「言語生活」「創作的態度」に区分されていて、それぞれが「指導目標」や「保育内容」に対応している。「保育内容」は「健康保育　よい健康生活　休息」「自由遊び　ごっこ遊び」「観察見学」「主題に即した社会生活指導の目標（よい習慣）」「行事」「お話　紙芝居」「劇遊び　人形芝居」「絵画　製作」「音楽リズム」（さらに「おうた」「和音」「リズム」「器楽あそび」「鑑賞」に分けられている）に区分されている。

1952年度の「本園のカリキュラム」には、「二年保育年長組」の8月を除く11か月分の月案がある。大きさは、B4判よりやや長い横長の用紙に、縦書きの手書きである。表の左側に、上から順に「幼

児生活主題」「保育領域」「指導目標」「保育内容」の欄がある。「保育領域」欄の区分は、1951 年度と同じである。

以上の名古屋市立第一幼稚園の計画は、後述するように名古屋市幼児教育会作成の『幼稚園教育課程』（1950 年）を基に工夫している。

(4) 龍野幼稚園の月案　(1951 年度)

「単元一覧表」と書かれた表紙の綴の中にあった月案は、年度は付されていないが日誌の記述等と照合した結果 1951 年度と推定できた。縦長で、手書きした枠組みがガリ版印刷されている。その形式は、表の右端の行に「単元」、上に「月」が設定され、次の行に「目標」「幼児の生活」「補導の着眼」「環境の整備」の欄がある。さらにこれに続いて「○月の保育内容」という案があり、その形式は、1 枚が縦に左右半分に分けられ、右側に「単元」「自由遊び　ごつこあそび」「ことばのけいこ」「言語生活」（さらに童話、劇遊びに区分）「音楽」（唱歌、観賞、リズムに区分）「体育」（唱歌遊戯、競技に区分）、左側に「図画」「製作」「自然の観察」「健康生活」「社会生活」「行事生活」「家庭との連絡」の欄が組まれている。「ことばのけいこ」や「体育」の欄があることや、「音楽」に「観賞」が入っていることが特徴である。

(5) 慈光保育園の月案　(1952 年度)

「椿組」と「撫子組」の案が、それぞれ、週案とセットになって 1 年間分あった。「単元」を月 1 つ設定した月計画が 1 枚あって、それを週案に小分けした計画表が 4 枚程度ついている。大きさは B4 判横長で手書きである。形式は、表の右半分に「単元」「中心生活」「目標」「展開」「評価の観点」の枠があり、文字は縦書きとなっている。表の左半分には、「観察見学」「お話」「音楽リズム」「自由遊び　ごっこ遊び　劇遊び」「恩物玩具　製作」「図画」「行事」「健康安全」「お約束　躾」「備考」の枠があり、横書きである。その中の「お話」は「きく」として「童話　紙芝居　幻燈」「言語　話す」に区分され、「音楽リズム」は「唱遊」として「律動　表現」「鑑賞」に区分され、「図画」は「描く　みる」に区分されている。

(6) 自然幼稚園の月案（1952 年度）（1953 年度）（1954 年度）

1952 年度の「保育プラン」は、4・7・10・11 月の 4 か月分があった。用紙は B4 判、横長で縦の手書きである。形式は、表の右端に「○月保育プラン　（自然幼稚園）」の枠、その次の行に「月」「単元」の欄、その次に「行事」の欄、その次の行に上から「主題」「予想される幼児の活動」「生活指導」「生活の基礎」という欄があり、最下段の中ほどに「音楽リズム」という欄がある。保育内容はこの園独自の設定である。

1953 年度の「保育プラン」は、4・9・1 月の 3 か月分がある。大きさは A5 判、横長で手書きの縦書きである。1952 年度の形式と比べて大きく変化している。表の上段に右から左へと「　○月保育プラン　自然幼稚園」と書かれ、表の右端に「単元名」、その次の行に「生活暦 / 項目」「目標」「安全」「健康」「社会性」の欄が設定されている。

1954 年度の「保育プラン」は、4・10・3 月の 3 か月分がある。大きさは A5 判、横長で縦の手書きである。形式は、1953 年度のものと大きく変化している。表の上段に、「幼児の生活主題
目標」の欄が横長にあり、その次の行からは右から「○月保育プラン　自然幼稚園」と書かれ、その左列に「行事」、その次の列に上から「望ましい幼児の活動」「社会生活指導の目標」「健康保育・休息」の 3 欄が設けられている。いずれの年度の保育内容も、この園独自の設定である。

(7) 興望館保育園の月案　(1954 年度)

「月別カリキュラム」は、5・6・9・11・1 月の 5 か月分がある。A4 判の大きさで、用紙は自施設用の罫紙である。用紙に線を引いて枠を作り手書きの横書きである。表の上に、5 月のみ「月の主題」があり、その次の行に「目標」(6 月以降は「保育目標」)、その次に、左側に「単元」(11 月以降「小単元」)の欄がある。続いて月により記載の順番は異なるが、「保育活動」「社会」「絵画製作」「言語」「音楽リズム」「健康」「健康の習慣」「園の行事」という欄が設けられて、1 週から 4 週に区切られて記入するようになっている。「保育活動」の欄には、それぞれの単元に沿った活動の指導方法が書かれている。保育内容は 6 領域に近い。

以下に、自然幼稚園を除く 5 園 1 団体の月案の形式を示しておく。

【表 2】慈友会幼稚園　1953 年度

月（　月　日ー　日保育月案　慈友会		
週	月 日ー 月 日	月 日ー 月 日
主題		
健康 保育 休息		
社会 生活 指導		
見学 観察		
音楽 リズム		
お話		
絵画		
製作		
ごっこ遊び 人形 芝居 劇遊び		
自由遊び 集団遊び		
年中行事		
備考		

【表３】徳島市幼稚園部会　1950 年度

月	主題	
	行事	
	単元	
	目標	
	生活の展開	見学視察
		リズム音楽
		自由遊び ごっこ遊び
		お話
		絵画製作
		健康保育
		生活の良習慣
	能力	

【表４】龍野幼稚園　1951 年度

単元	○月
	目標
	幼児の生活
	補導の着眼
	環境の整備

【表４－２】龍野幼稚園　1951 年度「月の保育内容」

単元		
自由遊び ごっこあそび		
ことばのけいこ		
言語生活	童話	
	劇遊び	
音楽	唱歌	
	観賞（ママ）	
	リズム	
体育	唱歌遊戯	
	競技	

	図画
	製作
	自然の観察
	健康生活
	社会生活
	行事生活
	家庭との連絡

【表 5】名古屋市立第一幼稚園　1952 年度

幼児生活主題	月　　○ 目 標												
保育領域	健康安全	集団生活による自主独立	社会生活及び自然生活の理解			言語生活		創作的態度					
指導目標													
	健康保育 よい健康 生活 休息	自由遊び ごっこ遊び	観察見学	主題に即した社会生活指導の目標（よい習慣）	行事	お話	劇遊び 人形芝居	絵画製作	音楽 おうた	和音	リズム	器楽あそび	鑑賞
保育内容													

【表 6】慈光保育園　1952 年度

観察見学			観点の評価	展開	目標	生活中心	単元
お話	きく 童話 紙芝居 幻燈						
	話す						
音楽リズム	唱遊 律動 表現						
	鑑賞						
自由遊び ごつこ遊び 劇遊び							
恩物玩具 製作							
図画	描く						
	みる						
行事							
健康安全							
お約束 躾							
備考							

【表７】興望館保育園　1954 年度

保育目標

週	1　　週	2　　週	3 、 4 週
単　　元			
保育活動			
社　　会			
絵画　製作			
言　　語			
音楽リズム			
健康の習慣			
園の行事			

３．主題・単元について

第２次世界大戦後の新教育で、単元学習、単元活動という用語が意識的に使われるが、幼児教育・保育の場では単元という言葉の使われ方はどうであったのか。1950 年度は徳島市幼稚園部会・慈友会保育園とも「主題」、1951 年度は名古屋市立第一幼稚園が「幼児生活主題」、龍野幼稚園が「単元」、1952 年度は名古屋市立第一幼稚園が「幼児生活主題」、慈友会保育園が「主題」、慈光保育園と自然幼稚園が「単元」、1953 年度は慈友会幼稚園が「主題」、自然幼稚園が「単元」、1954 年度は、自然幼稚園が「幼児の生活主題」、興望館保育園は５月のみ「主題」があり６月以降は週の「単元」のみ、慈友会幼稚園が月により「単元」「主題」で、記入のない月もあるというように、様々である。対象とした園のうち名古屋市内の市立第一幼稚園では 1952 年度まで主題が使われていて、慈友会保育園（幼稚園）は 1953 年度も主題で、1954 年度にもひと月だけ主題が使われている。1950 年代の初めは主題、半ばになると単元が広がったようにみえるが、1950 年度でも、徳島市幼稚園部会では月は主題であるが、この主題に沿った単元が記されているというように、両方用いられている。慈友会幼稚園や興望館保育園では、1954 年度でも月によっては主題を用いている。ここでとりあげた園はいずれも戦前に設立されている。徳島市にも戦前からの園が複数あり、徳島県は幼稚園が普及していた県であり、戦前に「保育教材系統案（基準）」の研究を行っていた。「主題」は戦前の保育案でも用いられていたので、なじみのある言葉であったと思われる。

主題･単元は､月に一つの案もあれば､4～5あげられている案もある｡4～5あげられている場合は、週の主題・単元と言ってよいものである。年度ごとに園の各月の主題・単元をまとめたのが表８である。慈友会保育園（幼稚園）・自然幼稚園・興望館保育園は、１年分残されていない。最も少ない 1953・54 年度の自然幼稚園では、３か月分しかない。月に一つである徳島市幼稚園部会は、主題に沿った単元が、８月は一つであるが他の月では２～４あげられている。龍野幼稚園は９～ 11 月が同じ単元で、9・10 月にはかっこの中に小単元が記入されている。月ごとの「保育内容」案の方には、4 ～ 12 月に２～５の単元があげられている。慈光保育園も９～ 11 月は同じ単元になっている。

４月は｢楽しい幼稚園（保育園）｣が半数､｢うれしい入園｣｢私たちの幼稚園｣等もあり､入園にあたって幼稚園・保育園での新しい生活を楽しむように考えられている。全国的な雑誌等の主題・単元と同様である。５月は雑誌等では「子供の日」が多いが、「子供の日」をあげているのは 1951・53・54 年度に各１園ずつで３園３編である。雑誌等と傾向が異なるが､｢端午の節句｣｢友達仲よく｣｢たのしい子供｣というように子どもに関することがあげられている。「お母さん有難う」｢母への感謝」

が名古屋市と東京都の 3 園・5 編でみられる。6 月の「梅雨」、7 月の「夏の遊び」、9 月の「お月見（月）」、10 月の「遠足」のような季節や行事に関わることは、半分ほどの月案で取りあげられている。1 月には「お正月」「たのしいお正月」、3 月には「春のよろこび」をあげている園が多い。

雑誌等のカリキュラムには、9 月に「動物あそび」、11 月に「乗物遊び・ごっこ」がよくあげられていたが、「動物あそび」は 1953 年度の自然に、「乗物」は 1950 年度の徳島市幼稚園部会の単元の一つに「のりもの遊び」があるのと、1953 年度の慈友会幼稚園に出てくるのみである。ただし慈友会は、「保育活動」や「見学観察」をみると、遠足で乗物に乗ることに関わった活動が主になっている。対象の内、2 園 6 編が名古屋市の公・私立の園であり、9 月は「草花と虫」「虫」が多い結果となっている。徳島市幼稚園部会では、主題は「お月様」であるが、単元の一つに「虫と遊ぶ」があり、雑誌等でも「虫」をあげている月案があり、バッタやコオロギをはじめとする秋の虫は、季節に合わせたものであり、昆虫は幼児にとって興味あるものと言える。

年度による変化はみられるのであろうか。複数年度の月案がある 3 園をみていくと、名古屋市立第一幼稚園は、1951・52 年度とも全く同じ主題である。自然幼稚園は、1952 ～ 54 年度の 3 年度ともあるのは 4 月のみで、52･54 年度は「単元」「幼児の生活主題」と種別は異なるが、「楽しい幼稚園」となっている。53 年度は「私たちの幼稚園」と記述が異なる。2 年度分残されている 10 月は、52 年度が「みのり」、54 年度が「元気な子供」と異なっている。

慈友会保育園（幼稚園）は、1950、52 ～ 54 年度と 4 年度分の月案があるが、50 年度は 10 月まで、54 年度は 11 月以降であるため、4 年度分揃っている月はない。3 年度分あるのは 4 ～ 6 月、9 ～ 11 月、2 月である。ただし 2 月は、54 年度には主題･単元が無記入である。5 月の「節句」、6 月の「田植」、5 月と 10 月の「遠足」のように共通の事項もあれば、11 月の 52・53 年度の「刈入れと感謝」、54 年度の「秋のみのり」のように、記述は異なるが、実りの秋の収穫に感謝するという意味で共通していると言えるものもある。50･52 年度には、6 月に「衣更え」があったが、53 年度にはなくなり「歯の衛生」が出てくるというように、変化している事項もある。

主題・単元数が多い慈友会保育園（幼稚園）や興望館保育園では、6 月の時の記念日に関することや、虫歯予防デーに関することがあげられている。節分は、徳島市の単元の一つに「豆まき」、慈友会保育園の 52 年度に「節分と（冬）（春）の花」とある。

仏教の園である慈友会保育園（幼稚園）では、1950 年度に「お盆」と「お彼岸」、1953 年度に「お彼岸」が出てくる。キリスト教の園である興望館保育園では、「感謝祭にちなんで」があげられていて、宗教に関わる行事がとりあげられている園もある。

以上みてきたように、主題・単元は、季節や行事に関わる事項が多く、園や年度による大きな違いはみられない。

ところで名古屋市では、1948 年度から公・私立幼稚園が合同で研究して 1950 年に名古屋市幼児教育会として『幼稚園教育課程』をまとめているが、この影響がみられる。特に名古屋市立第一幼稚園は、1951・52 年度とも同じ主題で、この『幼稚園教育課程』の「幼児生活主題」と同じになっている。第一幼稚園は、この研究の中心的役割を担った園の一つであった。慈友会保育園は、戦前は幼稚園であったがこの当時は保育園であって、この研究会には参加していないが、『幼稚園教育課程』が出された後、参考にした可能性は高いと思われる。

【表８】主題・単元（次頁に続く）

年度	1950 年度			1951 年度			1952 年度
園名	徳島市幼稚園部会		慈友会保育園	名古屋市立第一幼稚園	龍野幼稚園		慈友会保育園
種別／月	主題	単元	主題	幼児生活主題	単元（小単元）	「　月の保育内容」の単元	主題
4	たのしい春	うれしい幼稚園　さくら　春のあそび	集団生活と春の喜び	楽しい幼稚園	うれしい入園	うれしい入園　春の野辺	入園式（対面式）家庭と保育園　お玉じゃくし
5	友達仲よく	鯉のぼり　遠足　友達	端午の節句　母への感謝　遠足　自然界	お母さん有難う	＜記入なし＞	こどもの日　身体検査をうける　朝顔のたね蒔　動物飼育　お誕生会	節句（五月人形）汐干狩（遠足）　つばめ　麦刈り
6	梅雨の頃	時　梅雨　夏のはじめ	衣更え　時の記念日　梅雨　田植　乗物	緑のお庭	幼稚園の良い子	時の記念日　梅雨　麦刈と田植	衣更え　時の記念日　入梅　田植
7	夏	七夕様　終業式　参観日　夏の海	七夕祭　お盆　夏の遊び　夏休み	夏の遊び	幼稚園の良い子	七夕まつり　夏のあそび　夏休をまつ	
8	楽しかった夏休み	夏のあそび					
9	お月様	虫と遊ぶ　花屋さん　兎さん	お天気　草花と虫　お彼岸　お月見	草花と虫	すくすく伸びる元気な子（涼しい秋）	夏休みの思出　虫取り　お月見　運動会のおけいこ	秋の虫　月と星　健康と運動　お月見
10	元気な子供	運動会　秋の野あそび　八百屋ごっこ	秋祭り　遠足　秋の野菜　運動会	うれしい遠足	すくすく伸びる元気な子（たのしい運動会）	運動会　見学	お月見　秋の果物　きのこ　刈入れ　秋の遠足　紙
11	うれしい秋	菊　美しい野山　のりもの遊び		皆さん有難う	すくすく伸びる元気な子	秋のみのり　木の実、落葉拾い　八百屋ごつこ	秋の野菜　刈入れと感謝　冬の仕度
12	早く来いお正月	火の用心　郵便ごっこ　もうすぐお正月		冬のおしたく	冬の仕度	冬の仕度　お正月を待つ	燃料　郵便　人へのおくりおの　クリスマス　お正月
1	たのしいお正月	お正月　元気な子供		お正月	もうすぐ一年生（嬉しいお正月）	＜記入なし＞	お正月　交通整理　雪と氷　はきもの
2	春よ来い	豆まき　梅　動物遊び		元気な子供	もうすぐ一年生（寒い冬）		節分と（冬）（春）の花　歯と衛生　楽器（今昔）（ひなまつり）準備
3	さようなら幼稚園	ひなまつり　仲良しお友達　もうすぐ一年生		春のよろこび	もうすぐ一年生（春のよろこび）		

昭和20年代の保育カリキュラムづくりに関する実証的研究（4）

1952年度			1953年度		1954年度		
名古屋市立第一幼稚園	慈光保育園	自然幼稚園	慈友会幼稚園	自然幼稚園	慈友会幼稚園	自然幼稚園	興望館保育園
幼児生活主題	単元	単元	主題	単元	単元・主題	幼児の生活主題	主題・単元（6月以降単元）
楽しい幼稚園	楽しい保育園	楽しい幼稚園	家庭と幼稚園（たのしい幼稚園）花と蝶　鶏とひよこ　天長節	私たちの幼稚園		楽しい幼稚園	
お母さん有難う	たのしい子供		子供の日（節句）と母への感謝日　乗物（遠足の下準備）つばめ　家畜				主題・元気な子供　単元・子供の日　お母さん有難とう　小鳥　自然
緑のお庭	私達のからだ		歯の衛生　時計と規律　おたまじやくしと蛙　田植とほたる				歯をきれいに　時計　夏祭　梅雨
夏の遊び	たのしい夏	夏の遊び	七夕まつり　夏の野菜と果物　海水浴（夏の暮らし方）　夏休みの仕度				
	たのしい夏						
草花と虫	秋の喜び		草花と虫　秋の虫　お月見…月と星　お彼岸	動物あそび・お月見をしましょう			お休みの思ひ出　お月見　秋の自然
うれしい遠足		みのり	月と星　秋の野山（きのこ）			元気な子供	
皆さん有難う		助けあい	秋のよろこび（遠足）（乗物）　刈入れと感謝　紅葉		秋のみのり		文化の日を中心として　秋の果物　晩秋の自然界　感謝祭にちなんで
冬のおしたく	もうすぐお正月				単元・冬のくらし		
お正月	たのしいお正月			楽しいお正月	主題・お正月		新年を迎えて　寒さにまけず　雪又は冬の動物
元気な子供	春を待つよろこび		よいしつけのおさらえ　楽器とひなまつり		＜記入なし＞		
春のよろこび	（春を待つよろこび）				春のよろこび	春のよろこび	

（　）は週案に記入　　月案等が無い場合は無記入

４．保育内容について－領域「社会」につながる「見学」「観察」を中心に－

先行研究[6]でとりあげたように『保育要領』では、「見学」は「社会的施設」の見学と「自然界」に関する見学および遠足が、具体的な内容として示された。その後1956年刊行の『幼稚園教育要領』では保育内容が「12項目」から「６領域」となり、各領域に「望ましい経験」があげられている。領域「社会」の「望ましい経験」の６項には、「人々のために働く身近の人々を知り、親しみや感謝の気持ちをもつ」とあり、「働く身近の人々」として「幼稚園」の「園長その他の教師や、働く人」、「郵便配達・車掌・巡査・農夫など」があげられ、「停車場・郵便局・消防署・工場・商店などを見に行く」こともあげられている。また「ままごと・乗物ごっこ・売屋ごっこなどのごっこ遊びをする」ともあり、「ごっこ遊び」が「社会」の領域に組み込まれている。７項には、「身近にある道具や機械を見る」とあり、「自転車・電車・汽車・自動車・飛行機などを見る」「乗物が人や物を運んでくれることを知る」「建造物やいろいろな道具・機械類に関心を寄せる」とあげられている。８項には、「幼稚園や家庭や近隣で行われる行事に、興味や関心をもつ」ことがあげられている。

このような経緯を踏まえて、本章では昭和20年代後半期における月案において、12項目の「見学」「観察」の考えから６領域の「社会」の考え方へのつながりはどうだったのかという問題意識から、それぞれの月案における「保育内容」の「見学」および園外での「観察」に関わる記載事項に着目して、1）社会的施設・事物、2）働く人々、3）自然界、4）行事の４つに分類して検討してみる。分析対象は、表９のように自然幼稚園を除く６団体・園の月案とした。

【表９】対象園と月案の項目

園年度	徳島市幼稚園部会	慈友会保育園（幼稚園）	名古屋市立第一幼稚園	龍野幼稚園	慈光保育園	興望館保育園
1950	「見学　観察」	保「見学　観察」				
1951			「観察　見学」	「自然の観察」		
1952		保「見学　観察」	「観察　見学」		「観察　見学」	
1953		幼「見学　観察」				
1954		幼「観察」（11月）				「社会」

徳島市幼稚園部会では、社会的施設・事物の見学が比較的多い。社会的施設の関連では、６月「時計屋の店」、10月「果物屋の店」「八百屋の店」、11月「自動車の車庫」「自動車工場」、12月「消防署」「郵便局」「暮れの町」、１月「街のお正月」「郵便局」、３月「おひな屋さん」「飼畜場」「小学校」がある。「郵便局・消防署・工場・商店」などで、『幼稚園教育要領』の事項に近い。社会的事物では、５月に「私等の通る道」「途上での色々な乗物」があり、働く人々では「消防のおじさんの話をきく」「郵便さんのお話をきく」がある。

自然界では、４月「春の野山」、６月「麦刈」「田植」、10月「みのりの田園」があり、２月「早春の自然界」「公園の動物や小鳥の色々」、３月「吉野川堤防」とある。行事では、４月「お誕生会」「お花見」、11月「他校の運動会」がある。その他に11月「山の上から徳島の景色を見る」など市の様子を地理的に見るような事項もある。

慈友会保育園（幼稚園）では、1950・52年度は、園外に出向いて「見学」したと思われるもの

は少ないが、1953・54 年度にはいくつかみられる。

社会的施設・事物は、1950 年度は、6 月「汽車」、7 月「魚屋」がある。1952 年度は、5 月「乗物　舟ボート」「汽船」、6 月「シグナル」、10 月「町、道区別　右側通行」、12 月「燃料の紹介　どこから…どうしてできるか」「郵便が来るまでの経路」「電報」「小包のこと」「社会鍋　ほどこし」、2 月「十字路を横切る時の注意　信号につきて　車類の走る速度はきまっていること」と書かれている。1953 年度は、6 月「時計屋をみる」、7 月「八百やの御みせをみる」など商店の他に、5 月「水・空・陸の乗物」、10 月「乗物のいろいろ」など乗物に関する事項がある。1954 年度は、12 月「暮の町をみる」「消防自動車」、1 月「新春のまち」「郵便物」、3 月「小学校をみる」がある。

働く人については、1952 年度の 5 月に「お百姓さんのお仕事」とあり、10 月には「秋の果物」をとりあげるに際して「つくる人の苦労を知る事」と書かれ、2 月に「楽器」を「つくる人の苦労も教」えるとある。

自然界では、1950 年度は、6 月「麦刈り」「田植」、10 月「田圃」がある。1952 年度は、4 月「春の小川」、6 月「川」があり、9 月には「秋の虫」を「ひかりのくに九月号」を参考にして、「実物を実際に集める」とある。1953 年度は、6 月「麦刈見学」「田植見学」とある。11 月「稲のとり入れやむぎまきについて」とある。その他に、7 月に海水浴へ行った時に「海の生物、船、波、貝がら」（を観察し）、「海藻や貝を集める」、9 月「秋をさがす（おしばなもつくつてみる）」「色々虫をとつて標本つくつてみる」、10 月「野山でどんぐりきのことり、芋ほり等」とある。自然物を実際に集めたり、それを利用して何かをつくったりすることを示唆している。1954 年度は、11 月に「自然の変化に興味をもつて理解しようとする」として「（季節のもの）芋ほり、きのことり、どんぐり拾ひ、落葉ひろい」、3 月「見学…春の野原」があげられている。

行事に関しては、1950 年度は「お花見」「五月人形　鯉のぼり」「時計」「月の変化」「秋まつり」、1952 年度は、「五月人形　鯉のぼり」「時計の種類」「月の変化」「運動会」「町の新年のかざりもの等につきて」、1953 年度は、「御花見」「鯉のぼり、五月人形」「旗」「七夕まつり」「お月見」「おひなさま」、1954 年度は、「おまつり」「クリスマスのかざり」「まめまきの状態」「ひなまつり」がある。

名古屋市立第一幼稚園は、1951・52 年度の「観察　見学」の内容は同じである。社会的施設・事物では、4 月「動物園」、5 月「名城（名古屋城）の跡　街」、6 月「時計」、7 月「魚や」「水族館」、11 月「交通整理」「工場」、12 月「暮の町」、3 月「小学校」がある。働く人では、11 月「運転手さん　駅員さん　車掌さん」とある。自然界の関連では、7 月「海の生物」「山」「海」、9 月「秋のたねまき」、11 月「稲刈り」、3 月「春の野原」がある。行事に関することは、5 月「五月人形」、7 月「七夕祭り」、9 月「お月見」、10 月「運動会」「いもほり」、11 月「文化の日の町」、12 月「クリスマス」「もちつき」、1 月「お正月の飾り」、2 月「まめまき」、3 月「おひなさま」がある。

龍野幼稚園は、社会的施設・事物では、10 月「動物園」「植物園」「水族館」がある。働く人に関する記載はない。「自然の観察」という項目が設けられていて、4 月「摘草にでかける」、5 月「めだかやおたまじやくしを取りにゆく」「つばめの巣を見にゆく」、6 月「麦刈りと田植え」、9 月「虫を取りにゆく」とある。行事では、10 月「秋まつり」「菊花展」がある。

慈光保育園は、社会的施設・事物では、5 月「バス」、10・11 月「種々の乗物」「ふみきり」「信号」などの乗物やそれに関すること、6 月「時計屋さん」、9 月「八百屋さん」、12 月「くれの街」「大売り出し」、1 月「初荷」「初売り」などの商店に関すること、1 月「年賀郵便、ポスト」などがある。

働く人として、10･11 月「交通巡査」、1 月「郵便屋さん」がある。行事には、4 月「花祭り、花御堂」、10・11 月「御荘厳」のような仏教の行事もある。

興望館保育園は、月案に「社会」という欄を設定している。社会的施設・事物では、1 月「市場などの見学」がある。行事には、5 月「母の日」、1 月「新年の行事」がある。その他に、5 月「小鳥屋さんごっこ」、11 月「郵便屋さんごっこ」「電車ごっこ」「果物屋さんごっこ」「お米屋さんごっこ」、1 月「お店屋さんごっこ」「動物園ごっこ」など「ごっこ遊び」が記載されている。

以上で検討した園の保育内容の分析から、次のような特徴が明らかとなった。どの月案にも、社会的施設･事物に関連する見学対象は比較的多くあげられていること。働く人については、6 つの園･団体の月案のうち徳島市幼稚園部会、慈友会保育園（幼稚園）、名古屋市立第一幼稚園、慈光保育園の 4 でとりあげられていること。このことから、領域「社会」に記載されている「人々のために働く身近の人々」に関する事項は、『幼稚園教育要領』刊行以前にすでにとりあげられていると言える。また、興望館保育園では、1954 年度の月案に「社会」という項目を設定していて、その内容に「ごっこ遊び」の種類をあげていることが特徴的である。

以下、表 10 ～ 13 に、各園・団体の月案に見られる見学先・観察対象の事項をまとめた。

【表10】徳島市幼稚園部会の見学先・観察対象

1950 年度	社会的施設・事物	働く人	自然界	行事
4 月	幼稚園の様子		春の野山	お誕生会の様子　お花見
5 月	私たちの通る道　途上での色々な乗り物			
6 月	時計屋の店		麦刈　田植	
10 月	果物屋の店		みのりの田園	
11 月	山の上から徳島の景色を見る 自動車の車庫をみる　自動車工場			他校の運動会を観る
12 月	消防署を見学に行く　郵便局を見学に行く　暮れの町を見る			
1 月	街のお正月　郵便局見学			
2 月			早春の自然界　公園の動物や小鳥の色々	
3 月	おひな屋さん　飼育場　小学校	お母様お仕事	吉野川堤防	

【表11】慈友会保育園の見学先・観察対象

1953 年度	社会的施設・事物	働く人	自然界	行事
4 月				御花見
5 月				鯉のぼり、五月人形、旗をよくみる　水、空、陸の乗物
6 月	時計屋をみる　時計の種類（昔の日時計、水時計、砂時計		麦刈見学　田植見学	

7 月	八百やの御みせをみる母さんについて八百やへ		＊海水浴へ行った時（海の生物、船、波、貝がら） 海草や貝を集める	七夕まつりにより、天の川のこと　星のお話
9 月			秋のくさばなをさがす（おしばなもつくつてみる） 色々虫をとつて標本つくつてみる	お月見の供物について
10 月	乗物のいろいろ		野山でどんぐりきのことり、芋ほり等　／　稲のとり入れやむぎまきについて　／	月、星、月見の供物について　かんさつさせる
2 月				おひなさま、お供物、

【表12】名古屋市立第一幼稚園の見学先・観察対象

1951・52 年度	社会的施設	働く人	自然界	行事
4 月	動物園			
5 月	名城の跡　街			五月人形
6 月	時計			
7 月	魚や　水族館		星　海の生物　山　海	七夕祭り
9 月			秋のたねまき	お月見
10 月			いなごと稲	運動会　いもほり
11 月	交通整理　工場	運転手さん　車掌さん 駅員さん	稲刈り	文化の日の町
12 月	暮の町			クリスマス　もちつき
1 月				お正月の飾り
2 月				まめまき
3 月	小学校		春の野原	おひなさま

【表13】慈光保育園の見学先・観察対象

1952 年度	社会的施設	働く人	自然界	行事
4 月			散歩、小遠足	
5 月	バス		郊外の自然物	花祭り、花御堂
6 月	時計屋さん		田植	鯉のぼり　五月人形
7 月				お祭りの飾物、笹飾り
8 月	八百屋さん		菜園	
9 月	お宮		秋の野辺	お祭り　おみこし　飾り物 運動会　学校の運動会
10・11 月	種々の乗物　ふみきり　信号	交通巡査	脱穀	御荘厳
12 月	くれの街　大売り出し　お家の道具			餅つき
1 月	初荷　初売り　年賀郵便　ポスト	郵便屋さん		松かざり　おそなへ
2 月				豆まき　お雛壇

５．おわりに（考察）

本稿が分析対象とした月案は、公立３、私立４（内訳は仏教の園が３、キリスト教の園が１）で、全体13編のうち名古屋市のものが６編あった。対象園の多くは戦前からの歴史を有し、独自に保育計画を作成したり、徳島市や名古屋市のように研究団体を結成してカリキュラム研究を行ってきたという実績をもつ。このような傾向を踏まえつつ、上述のような分析結果から、全体考察として以下のことを指摘する。

１）月案の形式は、用紙の大きさ、文字の縦書き・横書き、項目の立て方などそれぞれ異なるが、その枠組みにはいくつかの共通性がみられると同時に独自性もある。形式の大枠は、「主題」･「単元」（一つまたは両方）、「目標（指導目標、保育目標）」「行事（園行事、年中行事）」の欄があり、続いて「保育内容（または生活の展開）」の欄が設けられている。一部には、「能力」や「輔導の着眼」「備考」等の欄が加えられている月案もあった。

２）主題・単元の使い方に関しては、園や年次によって明確な違いや変化が見られたというわけではない。月案を見る限りでは、単元と主題が混在している。その数も月に１つの案、４～５のように週の主題・単元を反映したものなど様々である。

３）内容の構成に関しては、主題・単元を基軸としたものになっており、保育内容の項目は 12 項目の影響を受けているものが大半である。但し、1954 年度の興望館保育園のように、「社会」の項目があるなど６領域の影響がみられる。

４）当時の保育雑誌等からの影響については、一部に近いものがみられた。『標準保育カリキュラム』に近いのが徳島市幼稚園部会、『保育』の「保育カリキュラム」の「望ましい経験の内容」にやや近いのが慈友会保育園である。しかし全体的には必ずしも雑誌等の影響を受けているとは言えない。やはり、戦前からの独自の形式･内容を踏襲しながら、独自の月案を作成したと思われる。

５）保育内容「見学」「観察」等では、地域の公共施設や商店など市民生活に関連した事項がたくさん見学・観察対象にあげられている点は、戦後のコア・カリキュラム運動にみられる地域社会の生活に着目した考えの影響であると言える。また、６領域の項目に近いものとして「働く身近の人」に関する事項も、この時期すでにとりあげられていることもわかった。

６）行事では、季節や年中行事に関係する事項が多いことが対象園の特徴であると指摘できる。わが国の伝統的な保育カリキュラムには、季節や年中行事に合わせた内容が多く取り入れられてきたが昭和 20 年代後半期のこれらの月案にも、その伝統が見られる。

最後に、本稿では「月案」に着目して、その形式や内容等の傾向や特徴等について検討してきたが、この作業をしていく中で、「月案」（月単位での保育計画）がいつ頃から、どのような考え方のもとに定着してきたのかについてははっきりわかっていないということにも気づいた。単元・主題が必ずしも月単位で考えられているわけではないし、月をまたぐものもある。月案の中には週の区分が示されていたものもあった。このようにしてみると、昭和 20 年代後半期には確かに「月案」は登場しているが、保育の計画の区切りが「月」でなければならない（あるいは、「月単位」とする）ということが定着していたのかどうかは、わからない。月刊誌には、月ごとの計画も紹介されているので、その影響もあったかもしれない。いずれにしても、「月案」の発生時期や考え方について史実に基づいて確証していくことは、今後の課題として残された。

注

1　例えば、田中享胤は「公的カリキュラムの発達」という表現で、このような流れをとらえている（参照：田中著『幼児教育カリキュラムの研究』平成 6 年、大阪書籍。第 4 章我が国における公的カリキュラムの発達と視座）。

2　研究代表者豊田和子「戦後初期の幼稚園・保育所におけるカリキュラムづくりに関する実証的研究　課題番号 18K02504　2018 ～ 2021 年度科学研究費補助金　基盤研究（C）研究成果報告書」2022、3 月（未公刊）

3　本稿では「月案」というタームで、この時期の保育の計画の特徴を見ようと試みているが、「月案」（あるいは、月間指導計画）は必ずしも、この時期に定着していたわけではないことをお断りしておきたい。というのは、わが国では周知のとおり、幼稚園の創設当時から「保育細目」「保育項目」の考え方から、一日の案、週単位の案 (週案) が定着していたようで、戦前にはそれらを基にした一年分の計画は見られる。一方、「月案」という月単位の計画が、幼稚園や保育所でいつ頃からどのような経緯から使われ始めたのかについては、正確な検証を要すると思われる。月刊保育雑誌に月の計画が掲載されるようになってきて「月案」が広まったのではないかと思われる。したがって、本稿での「月案」という言い方は、「暫定的なもの」として理解されたい。

4

【表 14】昭和 20 年代後半期に出回っていた保育カリキュラム関連の刊行物・雑誌等

編著・誌書名・出版社	掲載されている月案の概要
全日本保育連盟『保育』昭和出版	・1950 年 4 月から東京都保育研究会の月ごとの「保育カリキュラム」が連載されている。「保育活動」は [お話][見学観察][音楽リズム][絵画製作][自由遊び][行事][健康保育][生活指導] の 8 項目で 12 項目に近い。 ・1951 年 4 月から神戸大学兵庫師範学校明石附属幼稚園（責任：内匠慶子）の「幼稚園　保育カリキュラム」と、新潟県高田市北本町保育園（責任：根岸草笛）の「保育園　保育カリキュラム」が連載されている。幼稚園の方は、「単元」「目標」「幼児の生活（日常生活と中心生活に区分）」「補導の着眼」「評価の基準」の構成で、保育園の方は、「単元」「主なる経験」「望ましい経験の内容」「環境（社会関係、自然関係、構成の注意に区分）」の構成で、月ごとの連載とはいえ、計画は必ずしも月単位ではなく、2 週間や 3 週間単位である。保育園の方の内容は 12 項目に近い。
全国保育連合会中央カリキュラム委員会『標準保育カリキュラム』昭和出版	1951 年出版。全国からのカリキュラム資料を収集して、梅根悟や山下俊郎の指導を受けながら、公・私立の幼稚園・保育所を代表する実践者がまとめた「年間カリキュラム」と題して月単位の計画が示されている。「生活歴」「単元」「目標」「経験」「指導の要点」「内容」「自由遊」「健康保育」「生活指導」「準備」「効果判定」の構成で、保育内容は 12 項目に近い。
日本幼稚園協会『幼児の教育』	・1952 年 9 月から 1 年間、「月の保育」という見出しで、幼稚園をお茶の水女子大学附属幼稚園教諭の堀合文子、保育所を江東橋保育園長の鈴木とくが担当して連載している。幼稚園の計画は、年少組と年長組に区分され、「主題」「観察」「お話」「絵画製作」「音楽リズム」「楽器　鑑賞」「健康の習慣」「よき習慣」「行事」等で構成され、保育内容は 6 領域に近い。 ・保育所の方は、月案形式ではなく文章で書かれ、その内容は [生活指導] [健康保育] [遊びの実施][家庭への連絡] 等の面から述べられている。よって、保育内容の区分は示されていない。
『月刊保育カリキュラム』ひかりのくに昭和出版	・1952 年に創刊されていて、ここで取りあげた月案は 1953 年からの連載で、上掲の『標準保育カリキュラム』に近い。

５　徳島県幼稚園史編さん委員『徳島県幼稚園史』徳島県国公立幼稚園長会、1969 年、118 － 129 頁。
６　豊田和子・清原みさ子・寺部直子・榊原菜々枝「昭和 20 年代の保育カリキュラムづくりに関する実証的研究（3）―３師範学校附属幼稚園の場合―」名古屋柳城女子大学研究紀要、第２号、2022 年、15―32 頁。

付記：本稿は、日本教育学会第 81 回大会（2022 年８月、広島大学）にて、口頭発表（Web）をした内容を元に執筆した。執筆分担は、１と５が豊田、２が榊原、３が清原、４が寺部である。

An Empirical Study on Childcare/Edcation Curriculum Development in the Showa 20s (4): Focusing on Monthly Plans After 1950 (the 1950 54 year)

Toyoda, Kazuko*　Kiyohara, Misako**　Sakakibara, Nanae***　Terabe, Naoko****

本稿では、昭和 20 年代後半期の月案をとりあげて、その形式、単元・主題、保育内容等の特徴と傾向を分析した。対象としたのは、7 園・団体（公立 3、私立 4 ）の 13 編の計画である。この多くが戦前からの歴史を持つ園等で、戦前から保育の計画を作成している。今回の研究の問題意識は、この時期が 1948 年に『保育要領』が出されてから 1956 年の『幼稚園教育要領』が出されるまでの時期でもあることから、公的なカリキュラムが 12 項目から 6 領域へと移る過程で計画にもその影響がみられると考えられているが、実際の保育の現場ではどうであったのか、各園や団体の月案にそれらの影響がどのように反映されているのか否かを確かめることである。併せて、この時期の保育雑誌等に掲載された月案の内容との比較を試みた。分析の結果、以下の点が明らかとなった。

1. 今回の分析対象の月案等の多くは、主題・単元を基軸とした保育内容の構成となっており、保育内容の項目は 12 項目の影響を受けているものが大半であった。1954 年度には、「社会」の項目がある園など 6 領域の影響がみられた。主題と単元の使い方は、園により様々である。
2. 当時の保育雑誌等からの影響については、一部に近いものがみられたが、全体的には必ずしもそれらの影響を受けているとは言えない。その背景には、分析対象の多くは、戦前からの歴史をもち、独自に保育計画を作成したり、研究団体を有してカリキュラム研究を行っていたことが考えられる。
3. 保育内容「見学」「観察」等では、地域の公共施設や店など市民生活に関連した事項が見学・観察対象にあげられている。働く人の事項もみられた。これらは、戦後のコア・カリキュラム運動にみられる地域社会の生活に着目した考えの影響である。一方で、季節や年中行事に関係する事項が多いことが対象園の月案の特徴であると指摘できる。わが国の伝統的な保育カリキュラムには、季節や年中行事に合わせた内容が多く取り入れられてきたが昭和 20 年代後半期の月案にも、その伝統が見られる。

キーワード：月案，昭和20年代後半期，12項目，6領域，保育雑誌等

**Nagoya Ryujo Women's University*
***Professor Emeritus, Aichi Prefectural University*
****Nagoya Ryujo Junior College*
*****Aichi Gakusen Junior College*